

アーカイブ室新聞 (2009年5月29日 第187号)

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

*** 透過グレーティングが世界天文年2009の巡回展示へ**

アーカイブ室新聞32号に「流星写真儀用対物グレーティング発見」という記事を書いた。写真1が発見当時の透過グレーティングである。



写真 1

2009年5月30日から始まる日本天文学会創立100周年・世界天文年2009の企画展、ガリレオの天体観測から400年「宇宙の謎を解き明かす」という巡回展示にアーカイブ室所蔵の「透過グレーティング」が出品される。アーカイブ室所蔵のものでは他に、日本の時刻を決定する観測に使われていた90mmバンベルヒ子午儀も展示されるが、子午儀については項を改める。



写真2 展示ケースに入った透過グレーティング

この巡回展示の候補として、分光素子3点セットというお話があり、塔望遠鏡の分光器室で使われていた反射グレーティング、大きなプリズムとこの流星写真儀の対物グレーティングを提供していたが、展示には、この透過グレーティングのみが採用されたようである。写真2が展示用にセットされた透過グレーティングである。これは後ろの白熱電球が分光される様子(写真2)の展示となっている。

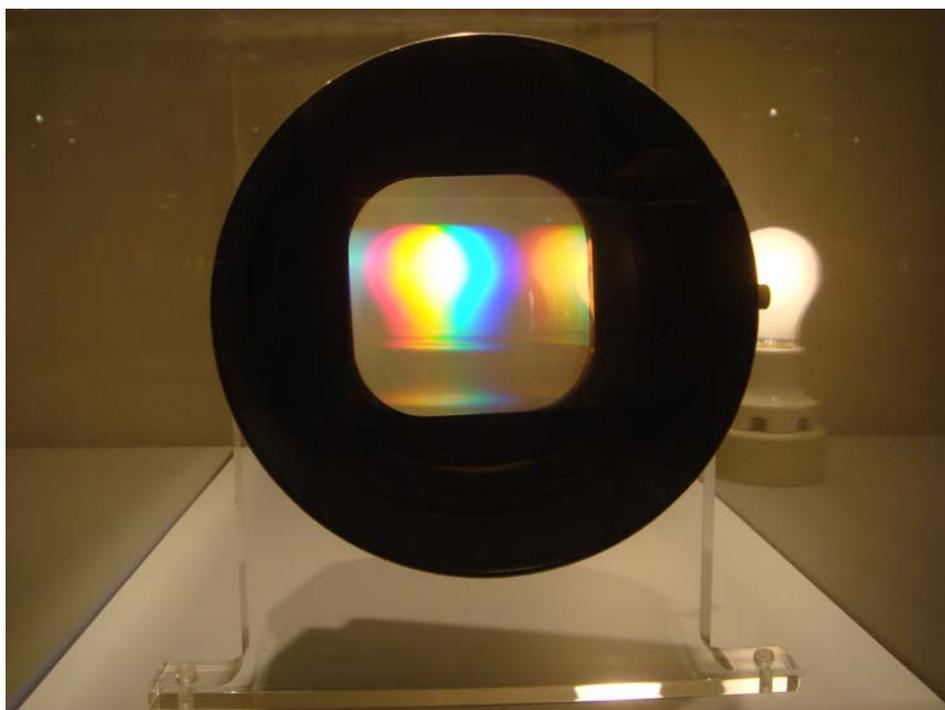


写真2 分光された電球が見える

この巡回展示は、国立科学博物館：2009年5月30日～7月20日、仙台市天文台：2009年7月25日～8月30日、新潟県立自然科学館：2009年9月5日～10月4日、名古屋市科学館：2009年10月17日～11月29日、大阪市立科学館：2009年12月5日～2010年1月31日という予定だそうである。